

#### 4-(1)-⑮ 社会貢献・連携活動の状況

##### ■ 美術館大学センター

隔年で開催している山形ビエンナーレは、第3回目の開催となった。会期中通しての開催から週末開催へと大きく実施形態を変更したにもかかわらず、13日間の会期中に過去最多の約6万5千人の来場者を集めた。

ビエンナーレ開催に向けては学長を中心とするディレクターズ会議及び担当者会議を定期的に行い、過去2回の運営上の課題整理を行い、開催概要と実施計画を策定した。

今回は、学内ディレクターを設置し本学を会場としたプロジェクトを充実させるとともに、学内の教員や学生、卒業生など大学関係者をより多く巻き込む仕組みづくりや授業科目「地域プロジェクト演習」での学生ボランティアの参画を通じた授業との関連付けなどを行ったことから、学内の参加意識を高めることにもつながった。

また、地元の来場者も増加したことにより地域の芸術祭としての存在感が地元市民の間においても高まってきたといえる。

##### ■ 社会人講座(生涯学習プログラム)

平成27(2015)年度に東京外苑キャンパスを拠点として立ち上げた「公民連携プロフェッショナルスクール」の後継事業として、次世代の地域経営を想定した経営戦略構築のプロの養成を目指す「都市経営プロフェッショナルスクール」を開講した。この講座では、国・地方自治体の大きな課題となる公共不動産活用を促進して税収・雇用の問題に切り込むことにより、各都市において稼ぐ産業を持ちながら、「効率的かつ魅力的な公共サービスを提供できる都市」づくりを実現させるためのスキルを習得する。

人口減少時代に生き残る地域を創るために、戦略的都市経営と公民連携事業で先駆的な取り組みを実践している「一般社団法人公民連携事業機構」との共同運営体制のもと、「公務員」「議員」「建築家」「事業家」など多彩な講師陣や前身のプロフェッショナルスクール卒業生が全国で手がけている先進地域でのケースを教材とし、半年をかけて基本的な考え方をeラーニングで学ぶとともに、講座の前半と後半部に短期集中型(連続2~3日間)の集合研修(演習)を組み入れながら、居住エリアを問わず効果的な教育サービスを提供した。

受講生募集の一環として東京・大阪・仙台・福岡等で開催した「公開シンポジウム／説明会」を経て、第1期44名、第2期14名の受講者を集めた。

##### ■ 全国高等学校デザイン選手権大会(デザセン)

高校生の視点で、社会や暮らしの中から問題・課題を見つけ、その解決方法を分かりやすく提案する「デザセン」は、四半世紀を経て25回目の開催となった。

25周年企画として「社会をデザイン」する視点に着眼した大会として開催してきた四半世紀の成果を、当時指導にあたった高校教諭や出場した高校生へのインタビュー形式でホームページから発信するとともに、デザセン立ち上げの中心人物のひとりであった長澤忠徳氏(当時:東北芸術工科大学助教授、現在:武蔵野美術大学学長)と中山ダイスケ学長とのweb対談も行った。

募集にあたっては、デザセンの魅力や授業での取り組みやすさをWEB等でアピールするとともに、デザセンに取り組むためのノウハウや生徒が考えた企画アイデアをブラッシュアップした芸工大生によるアイデアや、決勝大会に出場実績のある高校教員のデザセン指導の取り組み手順をHP及びフェイスブック等に公開することで、応募校の裾野の拡大に努めた。

また、入試広報や連携協定締結校での高大連携事業、デザセン関連学科によるデザイン思考の出張講義並びにSNSを活用した募集活動を展開した結果、国内から79校910チームからの応募があった。応募数は若干減少傾向にあるものの、県内外の進学高からの応募が例年どおり増加傾向にあり、今回、新規の応募高校12校の半数が進学校普通科からのものだった。